

京都府自殺対策推進協議会 計画部会

1 日時・場所

令和2年9月9日(水) 午後3時～午後5時
京都府旧本館会議室2-M(2階)

2 出席者

(1) 計画部会に属する委員(9名中7名)

石倉委員(オンライン)、黒川委員(オンライン)、鳥井委員、中村委員(オンライン)、波床委員、平田委員、三木委員

(2) 京都府

神田地域福祉推進課長、佐藤地域福祉推進課参事ほか

3 会議の内容

(1) 部会長の選出及び部会長代理の指名

京都府自殺対策推進協議会規則の規定に基づき、委員の互選により三木委員を部会長に選出した後、三木部会長が黒川委員を部会長代理に指名

(2) 京都府の自殺の現状の説明

事務局から自殺者数、自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)等について説明

(3) 第2次京都府自殺対策推進計画における重点施策についての意見聴取

事務局から重点施策として①未成年の自殺対策の強化、②民間団体の相談員等の確保等の支援、③一人で悩ませない体制づくりの3点を提案し、委員から意見聴取

(4) 主な意見(○=出席委員、●=欠席委員からの意見聴取)

① 未成年の自殺対策の強化

- 「そのままの自分に価値がある」と思える状況にないので、「学業不振」、「進路に関する悩み」で自殺してしまうのではないかと感じる。
- 電話相談を受けている中では、今の子どもたちは本当に信頼できる仲間がいないのではないかと感じる。社会の何か見えない基準があって、それに合致しているかどうか子どもたちが不安に感じているのではないかと。

② 民間団体の相談員等の確保

- 自死遺族支援のスタッフとして、看護師、保健師に入っていていただき非常に助かっている。相談員等の確保については進めていただきたい。
- 電話相談を維持していくの厳しい状況ですので、是非支援をお願いしたい。

③ 一人で悩ませない体制づくり

- コンビニの店員に大学生が多いので、コンビニ店員を対象にゲートキーパー研修を実施してはどうか。(黒川委員)
- 自殺ストップセンターという名称については、いいと思う。(平田委員)
- 一人で悩むことが必要なときもあるので、「一人で悩ませない」より「一人で悩まなくてすむ」の方がいいのではないかと。そういった体制づくりは最重要課題と考える。

④ その他

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、孤立している大学生、若者などの支援が必要ではないかと。大学と行政が連携できればいい。